

平成30年度 大阪市社会教育委員会議 第1回全体会 議事録

1 日 時 平成30年6月19日（火） 10時00分～12時00分

2 場 所 大阪市役所

3 出席者

（委員）

岡本委員、神部委員、木戸委員、久委員、弘本委員、前田委員、
松山委員、柳本委員

（教育委員会事務局・区役所）

山本教育長、三木生涯学習部長兼市立中央図書館長、
川窪利用サービス担当課長、松村生涯学習担当課長、植木文化財保護課長
林地域サービス担当課長代理、向生涯学習担当課長代理、
原田社会教育施設担当課長代理
金森区役所人権生涯学習主管課長会会長

（こども青少年局）

杉谷青少年課長

4 議事概要

（1）開 会

（2）あいさつ

（3）出席委員・出席関係職員紹介

（4）報告事項

- ・社会教育委員会議委員の異動について
- ・社会教育関係職員の異動について
- ・平成30年度社会教育関係予算と事業の概要について
- ・各種受賞について

第70回文部科学省優良公民館表彰（総合生涯学習センター）

平成30年度子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰

- ・「第3次大阪市こども読書活動推進計画」について
- ・まちづくり職業観育成体験学習事業 プログラム教材について

(5) 議案

- ・社会教育委員会議の議長・副議長について
- ・今後の生涯学習・社会教育の推進について

5 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(まちづくり職業観育成体験学習事業 プログラム教材について)

【事務局】

まちづくり・職業観育成体験学習事業につきまして、本事業は子どもたちが企画、協力して、仮想のまち、みらいシティを運営することで、社会を疑似体験するという事業になっております。プログラムにつきましては、まず仮想のまちに必要なルールや、仕事を決めるなど、事前準備をする事前学習というものと、それから、仕事をして給料をもらって、買い物や納税をするなど社会の仕組みを学ぶ体験学習というもの、それから、体験学習等の振り返りや未来の大阪について考える事後学習という3つのプログラムから成っております。

運営マニュアルを、ホームページに掲載し、今後、ダウンロードができるように進めてまいりたいと思っております。

【久議長】

おそらくこれは全国的に参考になりそうなマニュアルなので、大阪市教育委員会としてPRになると期待しているところでございます。

【前田委員】

小さなことで申しわけございません。私、現場におりますときには、こういうみらいシティの取り組みはいい取り組みだなと思って、お話をお聞きしているところなんですけれども、ここへ参加するのには、個々で募集というか応募されるのですか。学校単位とかじゃなくて、個々で応募されて、定員がございしますが、それは何か理由があって選ばれるのか、あるいは定員オーバーしても受け入れられるのか、そのあたりのことをちょっとお聞かせいただきたいと思ます。

【事務局】

申込は個々の子どもたちからお受けしたという形になっております。募集定員に対して、大体3倍程度の応募がありまして、最終、抽選という形になりました。

【久議長】

地域で実施する場合、運営マニュアルがあるから見てくださいというだけでなく、何かサポートとかアドバイスに来ていただくということは可能なんですか。謝礼が発生しても、私はいいと思っているんですけれども。

ずばり言わせていただくと、先ほどの運営マニュアルもそうなんですけれども、教育委員会がやるとどうしても有料で販売ということがなかなかできないんですけれども、これは2,000円を出しても買うよという人は多分いると思うんですね。それから、アドバイスやサポートを行うことは稼げる事業になる可能性はかなり私は高いと思いますので、財団のほうでも結構なんですけれども、ちょっと何か稼ぐということもあっていいのかなど。地域にとっても完全にお任せと言われるよりも一緒に歩んでもらえるよという方が、根が張りやすくなるというところもありますので、やっぱりそのあたりのサポート事業を今後、検討していただければありがたいなと思います。

(各種受賞について)

(第3次大阪市こども読書活動推進計画について)

(今後の生涯学習・社会教育の推進について)

【神部副議長】

大阪市立総合生涯学習センターが公民館表彰されて、非常に素晴らしいことだと思いますけれども、ちょっとお伺いしたいのは、ぜひ私も参考にさせていただきたいんですが、こういった表彰を受けるに当たって、センターのどういう点が評価されたのかという点でもうちょっと詳しく教えていただくと参考になると思うんですが、いかがでしょうか。

【事務局】

優良公民館表彰制度の要綱等に幾つか評価の対象となる点というのがございまして、いくつか申し上げますと、家庭教育の向上に資する学級講座を実施するなど、家庭教育学習の支援を拠点として活動を行っている施設であったり、学習情報の収集、提供、学習相談事業を適切に行っているとか、また指導者の研修とかボランティア養成事業をやっている、またIT学習環境の整備やIT講習会の実施などすぐれている点についてPRしていくということになります。

【弘本委員】

表彰おめでとうございます。いろんな個々の取り組みというのは、それぞれ専門の方が一生懸命、中身をつくっていかれ、実施もされていかれていて、成果も上げていらっしゃると思うんですけども、これらを単独の事業として成功させていく、そして表彰されて、よかったねという話だけではなくて、むしろ困難を抱えている子どもたちが成長していけるような、そういうところにうまく手を差し伸べていくというか、接続していくというような、そういうチャンネルをこれからもう少し開拓していかれてもいいのかなというような印象を、ちょっとお聞きしながら感じていました。

子どもさんの読書活動にしても、かなりネットワークを使って広げていっていかれているという特徴をお持ちのわけだから、これをもう少し問題を抱えているようなところにも手を差し伸べていくようなチャンネルをつくれなにかという、そういう活動団体等の手の結び方みたいなことも、上から下へというんじゃなくて、対等な形で出会っていけるような、そういう場を、必ず子どもはこうしなさいとかいう話ではなくて、どこかで引っかかるという、何かどこかですくいとれるというような網の張り方というんでしょうか、そういうものもあっていいのではないかなということ、さすがに大阪市はそれなりに規模もある自治体ですので、ある程度の予算も使って深めていけているわけですから、それをもっと何か社会の中に浸透させていくというところで、活動団体はたくさんあるわけですね。そこが手を結ぶということができていくといいのではないかなということをお聞きしながら感じました。

【久議長】

実際に子ども支援の活動をやっていらっしゃる方も当然出てきていますので、そのあたりとの連携、そのためにはおそらく市民局とかこども青少年局とか、局を越えた連携というものがどんどん進んでいって、その学びの機会というのを生涯学習できちんと押さえていただくという、このあたりの連携がもっと強化されればなあというようなお話かと思えますし、さらに大阪市の場合、そのあたりは区役所のほうから連携が図れるような体制を充実してこられていますので、市民協働担当、それから生涯学習担当の方々の連携を区役所ベースでやっていただくとか、いろいろ重層的に連携強化というのは、大阪市の場合はできるというように思いますけれども、そのあたりで何か事務局のほうから、もう既にこういうことをやっているよという情報提供なんかがあればお聞かせいただければと思いますけれども。他部局との連携ということで、何かこんなことをやっているよとか情報提供いただけるものがあれば。

【事務局】

生涯学習大阪計画のもとに進めております「生涯学習大阪計画プロジェクト会議」を、庁内横断的にさまざまな部署の担当者が集う庁内会議として実施しております。その中で社会教育委員の皆さんからいただいた意見も共有しておりますし、横のつながりをそこで生み出すというような仕組みも1つには構築しております。区レベルにおきましても、生涯学習の担当者会など、そういう横のつながりをつくる庁内会議もつくっております。

適宜、お互いに情報交換もしながら、また、それぞれの所属で活用していただけるように、いろいろな働きかけなどもさせていただいているところでございます。

【久議長】

生涯学習大阪計画の策定のときにも、こういう視点をとということをお願いをしていると思いますが、従来、教育委員会サイドとしては、みずから事業を推進するという立場が多かったと思うんですけども、いわゆる中間支援、いろんな情報収集の場の機会をつくるとか、あるいは市民の方々も含めて何かやろうとされている方の応援をどんどんしていただければ、みずから動かなくてもいろんな方々が動いてくださると思うので、そのあたりの場づくり、機会づくりをより充実していただけると。先ほどのネットワークの話もそうだと思いますけれども、それをまた重点的にしていただければありがたいなと思います。

【柳本委員】

私は今、生涯学習推進員として地域で活動しておりますが、やはり推進員さんでも地域で連絡会とかいろいろやっておりますが、やはり、上からの声が聞こえないところもあるので、もう少し推進員としての活動を活発にやるためには、そういうところももう少し連携をとっていただけたらなと思っております。

【久議長】

私もいろいろ地域の取材もさせていただいておりますが、生涯学習推進員さんであったり、あるいははぐくみネットのコーディネーターさんであったり、生涯学習にかかわる地域で実際に動いていらっしゃる方々がたくさんおられて、頑張ってくださいているんですけども、地域活動協議会の中での位置づけというのがきちっとできているところとできていないところがまだまだありますので、そういう意味では地域ぐるみの活動の中に、こういうはぐくみネットであったり、生涯学習ルームの事業であったり、そういうものがうまく位置づけていければいいのかなと思います。また、現場が動きやすいような体制づくりもお願いしたいと思っております。

今、全国的にも校下単位でまちづくり協議会とか地域活動協議会のような協議会づくりというのが進んでいっているんですけども、その中で地域の拠点というものが必要だねということで、かなり公民館がきめ細かく配置されている市町村が多いので、公民館がそういう協議会の活動の拠点、それから事務局機能を補っていくという、そういうことが進んできているんですね。大阪市の生涯学習ルームというのは、まさしくその先手を切っている部分というのがありますので、生涯学習からより派生して、地域活動の拠点として生涯学習ルームがうまく機能できるような、そんなこともますます強化していただければありがたいなと思っていますとところでございます。

おそらく校下単位で全ての校下にあるのは多分、生涯学習ルームだけじゃないかなと思いますので、そういう意味で今度、コミュニティを拠点として生涯学習をどう位置づけていくかというのも何かご検討いただければありがたいなと思います。

【弘本委員】

地域活動協議会であるとかまちづくりセンターさんとか、各区の区民祭りなどで、特に区民祭りなんかはずっと地域の団体さんととてもよい関係をつくって伝統的にやられていたんですけども、このままでいいんだろうかという、そういうジレンマをすごく抱えていらっしゃるって、そういうところにこういう学習プログラムを、楽しく学習できるんだよというようなプログラムをうまく入れ込んでいくような、そういう動きをぜひしていただけるとありがたいなと私などは見ていて感じる場所がとてもあります。どうしてもそこを脱皮できない場所があって、脱皮するチャンスにこういう学習プログラムが入って行って生かされて行って、そこでまた新しい地域の可能性や、問題を発見していく目とか、そういうものが育っていくととてもいい連携になっていくのではないかなということを感じています。せっかく生涯学習に関するネットワークのイニシアチブを持っていらっしゃるんで、その他の博物館とか博物館類似施設とか、社会教育に関するような活動をしている団体とか組織、機関、施設などの動きというのもうまく結びつけていただけるようなことをしていただけると、大阪に暮らす人や訪れる人にとってより有益な情報が得られ、また喜びも生まれるんじゃないかなと思いますので、ぜひそのつなぎ手としての役割みたいなことも強みとして意識して動いていただけるとありがたいなと思います。

【久議長】

私も地域のお手伝いをしていて、まさしく同感で、いわゆる今までの行事をこなしてはおられますが、そこを次のステップに行くための機会というものが必要かなと思っています。

まずは公民館活動から大きな地域の活動へ派生していくというような、そんなやり方もあるのかなというように私も思っているところでございます。

【松山委員】

私、PTAを12年ぐらいやらせていただいているんですけども、昨日、地震がありまして、その時に小学校が避難所として開設したところ、私の地域の小学校に15名の方が避難されてこられました。初動のお昼ごろに避難所開設の指示が出まして、それで、我々は防災リーダーから緊急連絡網を回しまして、その中で、なかなか高齢の方とか、まだメールもやっていない、もちろんSNSも全然できないという方もいらっしゃるしまして、そこについては電話で直接、連絡を取り合っていました。

各団体のリーダー格の方、女性部、地域の女性部長とかそういった方々が瞬時に集まっておられて、一応、防災リーダーのリーダー隊長の指示に従ってくださいということをこちらからお願いしたんですけども、もう早く福祉会館のほうで、泊まるときのために必要な寝具関係を出されて、被災された方、避難された方に場所の提供、これをいち早くやられました。

その後、中学生が何人か福祉会館、地域の会館へ来て、何かお手伝いはございませんかというお声かけをいただいて、それよりも君たち、身の危険があるかもしれないから、怖かったら学校にいていいよと、お家へ帰られるんやったらお家へ帰ってと、親と連絡をとってしっかり自分を守ってということでは言いましたけれども、おにぎりをつくる手伝いをしたんですよ。子どもたちの居場所づくりもこれからやろうかなとっている矢先に、こういう地震が起きて、そういう初動の時期で、子どもたちや地域の人が集まって、ぱっぱとやってくれたということとはほんとうにありがたいことでしたし、ただ、そうはいいまして我々の地域の中で、日ごろ、子どもたちは防災訓練を地域単位でもやっていますけれども、5年ほど前から学校単位で東北の地震以来、要援護者、車椅子に乗っている方ですとか、近くの施設の方、この方々を救助に行こうというプログラムで、要援護者避難体験というのを土曜授業で学校でやり始めまして、やっぱりそういう成果が出ているのかなと、実は考えておりました。今年度もその事業を実施する予定なんですけれども、一つ一つの積み重ね、特に学校単位、地域単位、そういったところの取り組みというのは、やっぱり子どもらにとって、講義で言うよりも、やはり現場でそういうOJT、現場教育として、子どもたちの身にしみていく。そして、スキルとして生きていく、また優しい心を育む、そういう部分できのう地震があって、いろいろ感じるころがありました、今日はこの社会教育委員会議があるということで、私もいろいろお話しさせていただきたいことを考えておったんですけども、まずもってはちょっとこの地震について感じ

たことをお話しさせていただきました。

もう1点は、はぐくみネットの件ですけれども、これも地域差はいろいろあるかもしれませんが、やはり学校と地域とコーディネーターの方々がどれだけ力を1つにしてやっていくかが大切な事業かなと思っています。我々の校下の中でも、区の中でも結構、活発にはぐくみネットはやっていただいているほうだと思っています。やはり、はぐくみネットの中でも今ちょっと私どもの区の中でも話題になっているのが、子どもたちの体力向上がやはり急務じゃないかなと。私ども区内の中もボール遊びができる公園が非常に少ない。小学校区においてはもう2校区か3校区ぐらいしかありません。それ以外は全部ボール遊びができないということで、やはり子どもたちは野球ですとかサッカーですとか、ボールを使った球技、これがスポーツとしてじゃなくて遊びとして普段やっぱりやっていることですので、場所づくりもそうなんです、やっぱり学校の施設開放とも連携して、そういった施設の開放をしながら、それとあとは、はぐくみのコーディネーターさんだけでは厳しいので、地域のスポーツ推進委員さん、そういった方々と一緒に子どもたちが交わる場、そして、居場所づくりも含めたことをできればなあと考えております。そんな中で、やはりはぐくみネットと学校施設開放、それから、生涯学習ルーム事業、体育厚生協会やスポーツ推進委員、こういったところとも協力いただきながら真剣に体力向上に取り組んでいかないと、この5年くらい、ほんとうに体力向上については子どもたちがなかなか伸びないという問題も抱えてございます。私も当事者として教育委員会さんのほうといろいろ協議はしているんですけども、なかなかこれといった手も打てずに今までできましたけれども、早くそういったはぐくみネット、また学校施設開放、生涯学習ルーム、いろんなところの力を借りながら、一校でも早く、一地域でも早くこういったことを何に取り組めるようなスキームをつくれたらなと思っていますので、また知恵がございましたら、この辺のこともぜひともご協力をお願いしたいと思います。

【久議長】

体力づくりと防災の話だったと思いますけれども、東住吉区にありますハートフレンドさんが数年前から中学生向けの防災リーダー養成講座をやってくださっています。そういう意味で、桑津校下は今、中学生が防災リーダーとして動ける体制を地活協等との連携で進めていただいておりますので、中学生向けの防災リーダー養成講座なんかを生涯学習の一環としてほかの校下、あるいはほかの区でも展開できるんじゃないかなと思いました。

体力づくりの話ですけれども、泉大津のある市民グループさんが、若手が中心のグループさんなんですけれども、中学校のスポーツクラブの指導者として自分たちもボランティアでかか

わりたいんだというご意見がございました。これがうまくいくと、学校の先生の負担も非常に軽減できるのではないかなと期待しているところなんですけれども、大阪市さんも既にそういう派遣事業を始めていらっしゃるんですけども、今、うまく機能している点でいうと、図書ボランティアさんはかなりたくさん入っていただいて機能し始めていますので、スポーツのほうも、もっともっと学校が地域の方々に、いわゆるヘルプを出していただいて、一緒に回せるような体制をとっていただくと、先ほどの松山委員のお話というのはかなり展開が出てくるんじゃないかなと期待をしております。

【神部副議長】

今回、大阪計画の策定にかかわらせていただいて、一番これから大阪の生涯学習、社会教育のキーワード、それは市民力というのが一番大きくキーワードとして出てきましたよね。やはり、これからの地域というものを活性化していくというのは人の力なんですよね。いつも僕自身、滋賀のほうでも社会教育、生涯学習を進めていく上で地域の力というものをどう引き出していくのかを考えています。結局、まちづくり、地域づくりといっても、行政だけの力では限界があるんですよね。一方で、逆に住民に丸投げされても困るわけで、これからの行政のあり方として、協働という言葉がよく出てきますけれども、どう協働していくのか、それはやっぱり行政の姿勢として、住民のエンパワーメント、住民にこれやってねというようなことではなくて、住民の力を引き出しながら協働していくという姿勢、施策というのが非常に重要だと僕は思っているんですね。そういう意味で、市民力というものを高めていく施策というのでいけば、もっと目に見える形で、大阪はこういう形で市民の力を引き出して、そういう力をうまく生かしながら、これからのまちづくり、地域づくりを進めていくんだという、そういう部分をぜひとも見える化していただきたいと思うんですね。

私が地元でやっていることは、地域の担い手というのをどう育てていくのか、そういうことを目に見える形でということで、例えば今、僕は天津市でおおつ学というのを立ち上げながら、そこで市民と一緒に天津のことを学びながら、やっと先月、そこで生まれた人材が集まって、おおつ人倶楽部というのを結成して、そこを中心にして自分たちが天津のために何かできることをみんなでやっていこうよと、そういう市民組織が生まれて、これからとても楽しみにしています。そういう形で何か象徴的なシンボルみたいなもの、今おっしゃった生涯学習ルームというのがそれぞれの地域の拠点になるのであれば、そこを中心とした人づくり、市民力をどう育て生かしていくのかという、そのあたりをしっかりと意識しながら、これからの大阪の社会教育というものを盛り上げていっていただきたいということをお願いしておきたいと思います。

【久議長】

私自身の思いと情報提供もかねてお話をさせていただきたいなと思っております。特に最近、若手と言われる年代、20代、30代、40代の方々が今までない、非常にユニークなイベントとか取り組みを始めていただいておりますので、そのあたりの力、知恵をぜひとも校下の方々へつなげるような、そんなこともやっていただければなと思っています。実際に大阪市の教育委員会としても、今日ご紹介いただいた、みらいシティであったり、あるいは防災タイムアタックのような防災ゲームの開発とか、あるいは図書館でずっとやられてきたビブリオバトルや書評漫才とかユニークな取り組みをいっぱい大阪市教育委員会としても発信をしておりますけれども、他市、他地域でもこういうユニークな取り組みがどんどん動いております。

3つほど紹介をさせていただければなと思っているんですけども、1つは先月、茨木市の図書館でブックトラベルというものをやりました。市役所の前に、すごくいい雰囲気緑地があるんですけども、そこへみんなで出かけて行って、図書館からもワゴンで本を運んで行って、あるいは自分の自宅でも読みたいなという本を緑地まで持ってきていただいて、ベンチに座りながらみんなで本を読もうよという、本を通じた旅ができるよという、それでブックトラベルとつけてくださったんですけども、そこには食べ物の屋台も出ていまして、お腹がすいたらそこでご飯が食べられるとか、お茶も飲めるとか、気楽な雰囲気です。1日中、みんなで本で楽しもうじゃないかというような、そんな取り組みをやっていただきました。図書館の職員さんの思いは、閉じこもっていてもなかなか伝わらないので、飛び出してみようよと。そうすると、緑地に来ている方が何をやっているのかということで参加してくれるんじゃないのかという、そういう非常におもしろい試みがされました。これは、地元のコミ誌をつくっていらっしゃるシティライフさんに受託をさせていただいて、シティライフさんの力も借りながらおもしろい展開ができました。シティライフさんというのは、いろんなことをやっているんですけども、一番有名なのは万博公園でロハスフェスタ、環境のイベントをずっとみずから主催事業としてやっていらっしゃる場所で、そういうアイデアを持っているところがお伝えしていただいたということもあって、すごくおもしろい展開ができました。

2点目は、私どもの大学の話ですけども、アカデミックシアターという非常におもしろい施設ができて、その中の拠点施設としてビブリオシアターというのがあるんですね。ここは壁全体に図書が並んでいますし、2階のブースは漫画が3万冊入っておりますけれども、漫画を借りてもいいじゃないのと、読書できるよとか、あるいはソファがあって、そこで寝そべっていてもいいよ、寝そべっている横に本があるよみたいな、そういう非常におもしろい空間

をつくらせていただきました。なかなかつくった意味をご理解いただいていない先生方の中には、せっかくつくったのにソファに寝に行っているだけの学生がいるやないかという話があるんですけども、私たちの思いはそれが狙いなんですね。本を読みたくないけれども、ソファがあるから寝ている。でも、その横に、手が届く範囲か本があるよと。そうすると、本をとってくれるという機会にもなるんじゃないかというような、そんな試みをさせていただいています。子どもの読書推進協議会なんかで、小学校の図書室の改装の事例もございますけれども、何かうまく機能している小学校というのは、本を読みにくる空間というよりも、用事がなくても来てねというような図書室に変えていくことによって、図書室の稼働が増えているというご紹介を何度かしていただきましたけれども、本を読ませるというよりも、まずは本のある空間に行ってもらおうという、何かそんな試みというのが、先ほどのブックトラベルも同じなんですけれども、非常に重要ななと思いました。

3点目ですけれども、泉大津で応援してきたグループですけれども、ホンノワまちライブラリーというグループがありまして、ホンノワ、つまり本でコミュニティをつくっていこうよということにチャレンジされているところなんですけれども、自分の家の庭先に鳥の巣箱のような木箱を置いていただいて、そこに本を持ち寄って、読みたい方がそれを持っていけるような、そんなことを展開中です。まちライブラリーは大阪発でいろんなところででき上がっているんですけども、こういうように自分の庭先に本箱を置くというタイプのまちライブラリーというのは非常に珍しいんですけれども、今、泉大津を中心に10カ所ぐらいでき上がってきて、昨年度はある集会所の前にも置いてくださったというような、町会活動とのコラボもでき上がってきております。なぜそのお話をしているかというと、神部先生にもおっしゃっていただいたように、市民ですごく企画力、行動力を持っていらっしゃる方がおられますので、そういうことを応援するというような、そういうことができれば、先ほどのホンノワまちライブラリーのような方々が大阪市内でも同じような取り組みをやってくださる可能性というのはありますので、ちょっとそのあたりの情報提供、それから、背中を押してさしあげるような、そんなことができれば市民の中にもどんどん輪が広がっていくんじゃないかなと期待をしているところでございます。

あと、2点ちょっと違う事例を含めてお話をしたいのは、先ほどの中間支援の機能を充実させてくださいという話をさせていただいたんですけれども、ポータルサイトをどんどん充実させていただきたいなと思っていてまして、私が今、区レベルでお伝えしている中でも、すごいおもしろいことをやられている方がどんどん出てきているんですね。ここへ行けばそれが全部リス

トになって見られるような、そんなコーナーもできたらなと思います。1つ、事例として申し上げますと、東成区で「わがまちひがしなり勝手に五十三次カルタ」というのをつくった方がおられまして、こういう地域の情報を勉強するカルタを勝手につくられたという取り組みもございませう。こういうような取り組みが私も回らせていただくと各地にありますので、ここを見たらおもしろい取り組みが全部見られるよという情報窓口ができたらなと期待をしておきます。

最後ですけれども、明石市のお手伝いもして、明石がすごくおもしろくなってきました。たまたまですけれども、明石の再開発ビルの中に生涯学習センターと男女共同参画センターと市民活動センターとが入っているんですね。この生涯学習センター、男女共同参画センター、市民活動センターをまとめて、明石市のコミュニティ創造協会というところが受託をしました。その結果、この3者間の垣根が非常に低くなって、機能を始めたんですね。そういうことを大阪市に置きかえていうと、例えば拠点施設としたら、生涯学習センターとクレオ大阪がありますよね。これはまさしく男女共同参画と生涯学習なんですけれども、多分、市民レベルでいうと、クレオ大阪や生涯学習センターが何のための施設かということ意識しないままうまく活用されていると思うんですね。そういう垣根は、私は建前上は必要ですけれども、実質上は垣根は低くてもいいのかなと思っていますので、例えば何かイベントをしたり、何か講座をしたり、クレオ大阪があいているか、生涯学習センターを使うかというのを、垣根をなくしてしまっ、いろいろ使えるような形になったらいいなというように思いますので、そういう意味では教育委員会が管轄をしている施設だけではなくて、いろいろな部署が管轄している施設も生涯学習の拠点としても活用できますので、そういうことをちょっとまたこれから強化をしていただきたいと思います。

いつも言っているのは、生涯学習の3層構造ですよ。生涯学習センターが市全体をカバーして、区域には様々な生涯学習関連施設がある。地域単位には生涯学習ルームがあるというよ、こういう3層構造というのが、大阪市の特徴だと思いますので、そういうことをいかに有機的に連携するかというところを考えていただくといいなと思いますし、その1つのマネジメントを教育委員会がしていただくとありがたいなと思っております。図書館も中央図書館があり、区図書館があり、そして、各学校にも図書室があるというような、それぞれ地域ごとに応じた構成になっておりますので、大阪市全体から各校下へ広げていくような、こういうよな構成をいかにうまく機能させていくのかというのを今後ますます考えていただければなと思っていますのでございます。